

## 報 叢

- ◎ 三笠宮殿下は中近東方面の学術的開發に御心を寄せて居られるが、特に本会の為に金一封を頂戴した。
- ◎ 昨年 of イラン学術調査隊は帰国後各地でスライドを使用して講演会を開催して好評を博した。

## 編 集 後 記

- ◎ 昨今は正に中近東ブームの觀があるが、就中、先般のイラン皇帝の來訪は圧巻であつた。又、各種展覽会やアジア・オリンピックまであつて賑やかな事である。しかし、何れにしても大変結構な事で、我々西南アジアの研究を志す者にとつて喜ばしい次牙である。
- ◎ 編集子にとつて編集後記を書く事は一番大きい楽しみであると聞いているが、ブームに目を奪われて自分の手柄の様に錯覚してはならない事を反省すると、本誌の編集後記を書く事は決して楽しくないものである事が感ぜられる。
- ◎ 七月から幹事会も強化されるので次号からはもつと活潑になる事と信ずるが、尚大方の御叱正と御鞭撻をお願いする。 ( 高林 )

-----  
西南アジア研究 第 二 号

昭和33年7月4日印刷

昭和33年7月5日発行

編集兼発行者 京都大学文学部陳列館内  
西南アジア研究会

代 表 者 足 利 惇 氏

京都市中京区丸太町通烏丸西入

印 刷 所 竹 田 騰 写 堂

電 ③ 4404・4748番  
-----